

地域再生

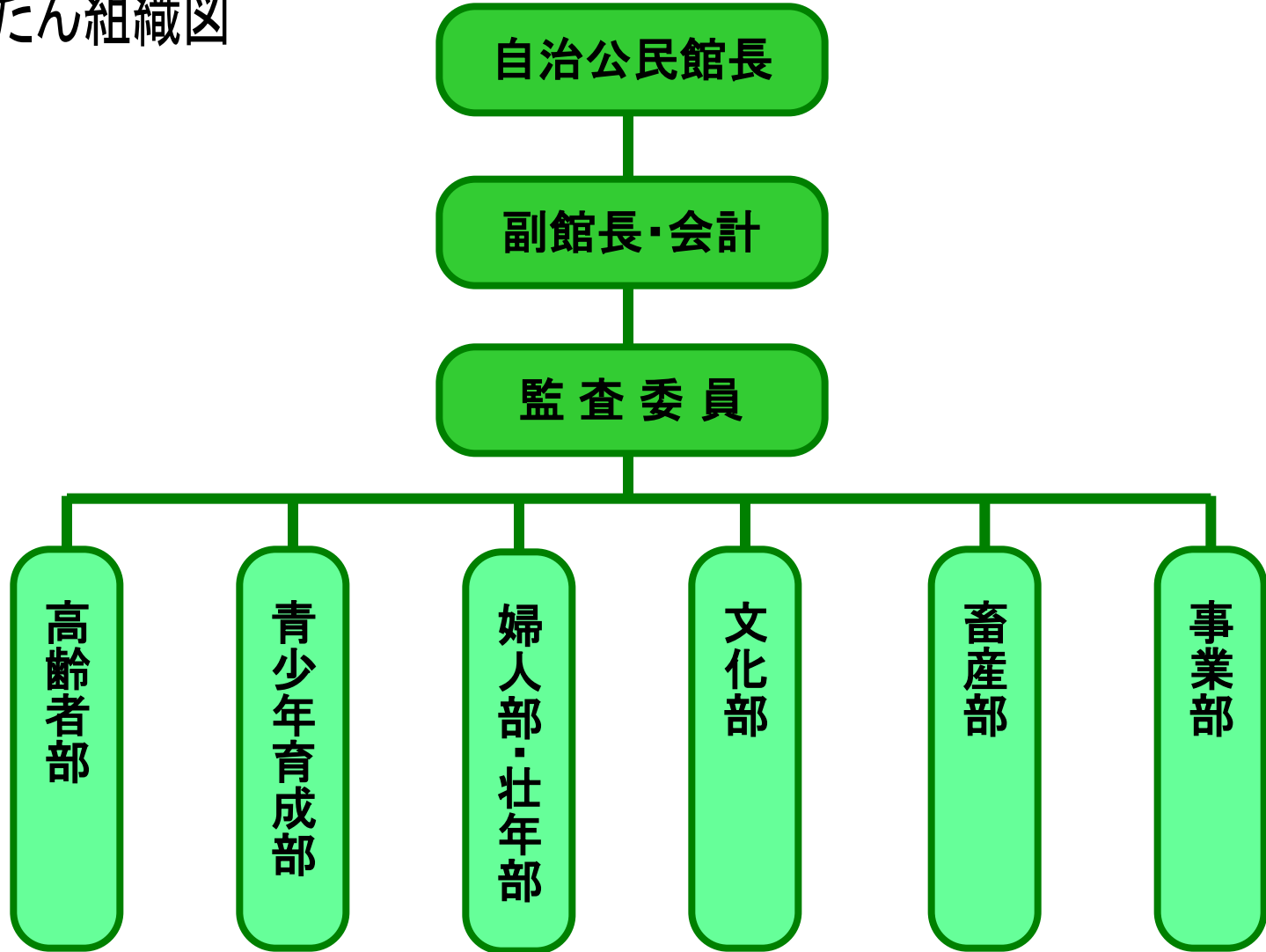
～行政に頼らない感動の地域づくり～

鹿児島県

鹿屋市 柳谷町内会

感動の『むら』おこし ～柳谷の底力～

やねだん組織図





わくわく運動遊園 全景



わくわく運動遊園建設

平成14年7月12日 記事

地域再生へ ～柳谷集落の挑戦～

補助金頼らぬ地域興し

資金はカライモでねん出



サツマイモ栽培

(14. 7月3)

まちの話題

一町歩のからいも植え

柳谷集落民会議

なんと3時間で終了!



100名が参加したからいもの植え付け

柳谷集落民会議(豊重哲郎議長)では6月9日、約100名(小・中・高生を含む)の集落民が自主的に参加して、からいもの植え付けを行いました。

昨年までの3反歩(30アール)の生産活動を、今年も福元健哉さん所有の無償提供の畑をはじめ、苗の提供者、トラクター出

動者の協力もあり、面積を一町歩(100アール)に増やしました。当日は、参加者が多く、なんと3時間で植え付けが終了しました。

益金は、土着菌センターの運営資金や高齢者の緊急警報装置、そして青少年の活動資金として充てられる予定です。



からいも生産活動



からいも植え付け



からいも収穫後
町内会の皆さん

からいも収穫風景



串良町・柳谷集落が一丸で



土着菌センター内で完成した菌を住民に配布

また、各家庭に設置されている生ごみ処理用のコンポストでは、土着菌を混ぜて堆肥化。自家菜園に活用することで集落外への生ごみの排出をなくしている。

「飼料に混ぜて与えると、ふんの悪臭が消え、子牛が下痢をしなくなった。堆肥にふりかけるとハエの発生も少なくなりました。」と話す、同集落の生産農業家・吉留さん。同様に、犬や猫などペットに与えている家庭でも土着菌の効果があるという。

家畜のふん尿を外部に出さず、管理施設での処理が義務づけられる「家畜排せつ物処理法」。完全施工を三年後に控えて早急な対策が求められる中、柳谷集落では、集落ぐるみで環境対策に乗り出した。これは、土着菌を利用し、生ごみの堆肥化や家畜の排せつ物処理などを行う取り組みだ。

飼料に混ぜて給与
子牛の下痢の減少にも

出来上がった土着菌を集落内の全家畜に与え、ふん尿の無臭化を図っている。糖分を加えているため、嗜好性も良いと言う。



各家庭に設置されている生ごみ用コンポスト

土着菌利用し
においを低減

家畜ふん尿の悪臭対策



土着菌製造作業

～土着菌作り分担表～

The image shows several sheets of paper with handwritten Japanese text, likely a shared task list for mushroom cultivation. The papers are overlapping and contain various columns of text, some with red markings. The text is dense and appears to be organized into a table or list format. The handwriting is in black ink on white paper. The overall appearance is that of a working document or a shared checklist.

補助金に頼らず住民手作り

串良町・柳谷集落



手作りの土着菌センターの完成を祝う集落民ら

町の補助に頼らない自立時興の集落づくりを進める串良町上小原の柳谷集落(百三十戸)に手作りの土着菌センターが完成、二十四日落成式があった。集落の各家庭から一つずつ提供してもらった民具を保存・展示する「お宝歴史資料館」も併設。地域学習の拠点としても活用される。

土着菌センター完成

畜産ふん尿、生ごみ対策の拠点



上 : 土着菌動機作業



左上下 : 土着菌を畑に拡散

～土着菌の効果～

土着菌使用



土着菌無使用





自然薯



トマト栽培



自然薯



ほうれん草



桜島大根



チンゲン菜・みず菜



ぬかごからの苗

自然薯 植え付け





土着菌無使用 水稻

土着菌使用 水稻





分析試験成績書

第405180403-001号
2005年(平成17年)11月03日

依頼者 榑谷自治公民館

検体名 宇ねだん土着菌

依頼人

日本食品分析センター

東京本部	〒151-8531	東京都港区	元代々木町5丁目1号
大阪支店	〒554-8515	大阪府東淀川区	鹿野町3番1号
名古屋支店	〒466-8511	名古屋市中区	大須1丁目5番13号
九州支店	〒812-8511	福岡県博多区	下河原町1番12号
多摩研究所	〒206-8511	東京都多摩市	水山6丁目1番10号
千歳研究所	〒060-8511	北海道千歳市	文京2丁目3番

2005年(平成17年)10月25日当センターに提出された上記検体について分析試験した結果は次のとおりです。

分析試験結果

分析試験項目	結果	検出限界	注	方法
総細菌数(生菌数) CFU/g	1.4×10^6 /g 5.0×10^2 /g			標準寒天平板培養法 CFU+2H-2(100)寒 天平板培養法
酵母数	1.5×10^4 /g			CFU+2H-2(100)寒 天平板培養法
乳酸菌数	1.5×10^4 /g			MRS寒天平板嫌気培養 法

土着菌、今度は芋焼酎に利用

串良町の柳谷集落

『やねだん』発表会に200人

土着菌(地中の微生物)を活用しユニークな各種事業を繰り広げる、串良町上子原の柳谷集落(130戸)が、土着菌で発酵させた堆肥で育てたコガネセンガンでオリジナル芋焼酎「やねだん(柳谷の意)」を製作。21日集落内広場で発表会があり、住民関係者が『柳谷の味』を堪能した。



大勢の出席者が見守る中で除幕された焼酎記念碑



焼酎 『やねだん』

焼酎『やねだん』発表会
集落全体でのパレード(左)



焼酎『やねだん』 (右)





歴史館内の歴史人達コーナー



手打そば『未来館』



歴史館

まさかの時の
「緊急警報装置」
(介護・防犯) (左)



煙感知器設置 (左下)



柳谷集落 パトロール隊 (下)



やる気をおこせば

必ず『きせき』が起きる

～子どもの発達～

0～ 7才 • 感覚・意志力

8～14才 • 感情を育む

15～20才 • 思考力・判断力



柳谷高校生クラブ結成会



高校生による『バナナのたたき売り』

～十五夜にて～



高校生によるファッションショー ～十五夜にて～



地域のこども達による 棒踊り



高校生によるメッセージ放送

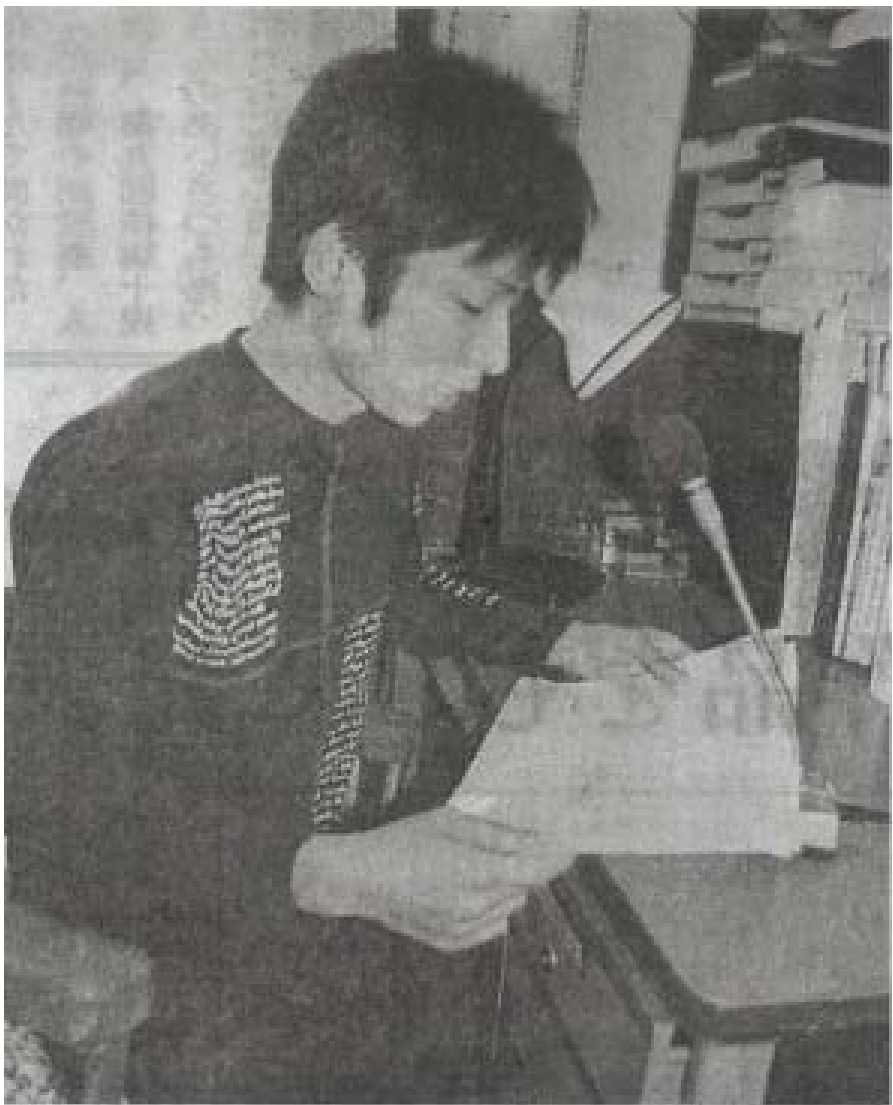
母の日、感謝のメッセージ

有線放送が橋渡し

串良町柳谷集落

高校生、感動の代読

「母の日」の9日朝、町外に住む子供から母親へのメッセージが流れた。夫に先立たれた一人暮らしの母親を気遣う娘、初めてお母さんに手紙を書いた息子、そして故郷の季節の産物を送り続ける母親に感謝する息子夫婦。放送は集落の高校生クラブ会長が担当し、母と子の心の橋渡し役を務めた。



サンセットウォーキング大会

「3つ子の魂 100まで」

幼児期は成長過程の初期段階として、本物の感覚と意志力が育まれるもっとも大切な時期である。

感覚とは『しげき』によって起こる感じ、さとりであり、意志力とは、自分で考え自分で行動する力のことをいう。

願いは『1』つ。それは人間として『たくましく』・『人に迷惑をかけない』子供に成長してほしいということ。



サンセットウォーキング大会



サンセットウォーキング(座禅)



サンセットウォーキング表彰式



ミッドナイトウォーキング大会 垂水道の駅～やねだん 46km

2007年8月25日～26日

『やねだん』から桜島1周往復120Kサイクリング



～ サイクリング終了後 ～



～ 集落の活動 ～



青少年の学ぶ『寺子屋』



めったに聞けないコンサート ～政府農村モデル選定記念にて～



おはよう声かけ運動

53年ぶりの復活!!

鬼火焚き





柳谷住民にボーナス1万円 ～記念式典より～

『迎賓館』Map(表)



『迎賓館』Map(裏)



～『迎賓館』完成まで～

- 着工前 -



- 着工後 -



迎賓館 第1号館



迎賓館 第2号館



迎賓館 第3号館



迎賓館 第4号館

- 着工前 -

迎賓館 第5号館

- 着工後 -



- 着工前 -

迎賓館 第6号館

- 着工後 -



迎賓館 5号館 ~牛小屋を美術館に~



迎賓館 8号館



美術館



芸術回道

むら工房



ギャラリー やねだん

第7号館 ～油絵画家(北海道から)～





豊重哲郎の似顔絵
(三谷正油彩家作)



フスマ似顔絵
(石原哲行水彩家作)

第7号館 アトリエ





展示会



絵画教室



陶芸に挑戦



陶芸教室

上小原中学校 122人が、やねだんの芸術家に「ふれあい授業」



リサイクルセンターの壁画



『やねだん』故郷創世塾



第1回塾生



第2回塾生



第4回塾生



第5回塾生



第6回塾生

外国からの視察団



← 韓国より ツアー来訪



韓国より 小学6年生28人来訪 →



韓国ツアー デグ市のj's ホテルに居酒屋やねだんオープン



H19年3月6日 460人参加

NHK ハチマル 旅するラジオ80ちゃん ～柳谷地区から全国放送～



H19年4月17日

柳谷地区 伊藤県知事来訪





委員の自薦や、各農政局が推薦した160地域の中から

- ①安心・安全な食材供給
- ②バイオマスなど循環型の環境保全
- ③都市・農村交流

などで特に先駆的、独創的なところを選んでいる中、柳谷自治公民館は、集落民のボランティア作業による土着菌を活用した畜産ふん尿処理や遊休地を活用したサツマイモ生産を行い、土着菌、サツマイモ販売で得た益金を、老人福祉や青少年育成に充てている「行政に頼らない集落運動」が高く評価された。

(16.6.15)

土着菌生かす串良・柳谷自治公民館 政府の農村モデルに

30地域初選定

政府の「食料・農業・農村政策推進本部」（本部長・小泉純一郎首相）は十四日、地域自ら考え行動する農山漁村づくりを実践している全国三十のモデル地域を初選定した。鹿児島県からは、串良町上小原の柳谷自治公民館（豊重哲郎館長、約三百人）が選ばれた。同本部が委嘱した「立ち上がる農山漁村」有識者会議（座長・林良博、東京大学副学長、九人）が選定。活性化に強い情熱や独自の経営感覚を持つ地域を他の「二本」と位置づける。委員の自薦や各農政局が推薦した自治体の中から、①安心・安全な食材供給②バイオマスなど循環型の環境保全③都市・農村交流などで特に先駆的、独創的な所を選んだ。今後、モデル地域を有識者会議の委員が視察。活性化要因を分析して、インターネットなどを通じて全国に紹介する。農水省によると、首相や農水大臣など関係閣僚のモデル地域訪問も検討されている。

柳谷自治公民館は、集落民のボランティア作業による土着菌を活用した畜産ふん尿処理や遊休地を活用したサツマイモ生産を行い、土着菌、サツマイモ販売で得た益金を、老人福祉や青少年育成に充てている。行政に頼らない集落運営」が高く評価された。

豊重館長は、「集落ぐるみの農業生産法人化を目指す」最中のニュースで、今後の地域づくりの自信となる」と話した。

九州からは、柳谷自治公民館のほか、大分県大町町協（大分県大山町）、石垣島果樹生産出荷組合（沖縄県石垣市）の計三地域が選ばれた。

受賞歴

～柳谷自治公民館～

- 日本計画行政学会『計画賞』

最優秀賞受賞(地域づくり日本一)

2002.11.29

- 2004年度

政府農村モデル選定

(食料・農業・農政政策推進本部)

2004.6.15

- 半島地域活性化優良事例受賞

国土交通省 ・半島地域振興協議会長

(合同賞) ・半島地域振興対策議会議連協会長

・全国半島振興市町村協議会長

行政に頼らない『むら』づくり

2005.6.28

受賞歴

～柳谷自治公民館～

- 第38回『MBC賞』受賞

株式会社 南日本放送

2005.9.20



- 農林水産省

ムラと自然再生賞特別賞

2006.1.20

- 第57回 南日本文化賞受賞 2006.11.1



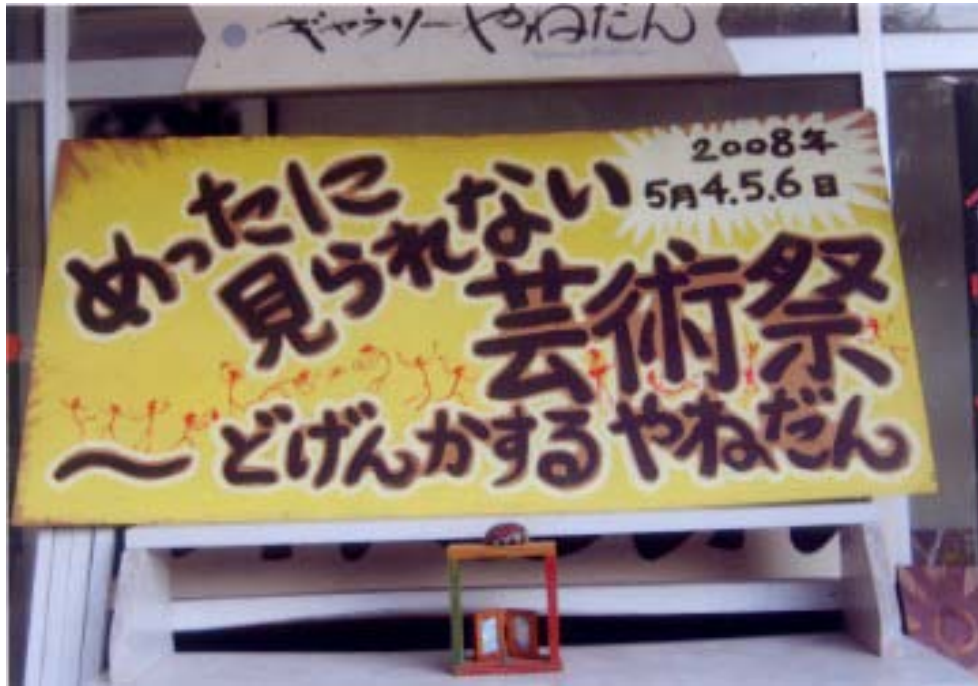
- 平成18年 県民表彰受賞 2006.11.2



内閣総理大臣賞 受賞



『やねだん』 めったに見られない芸術祭

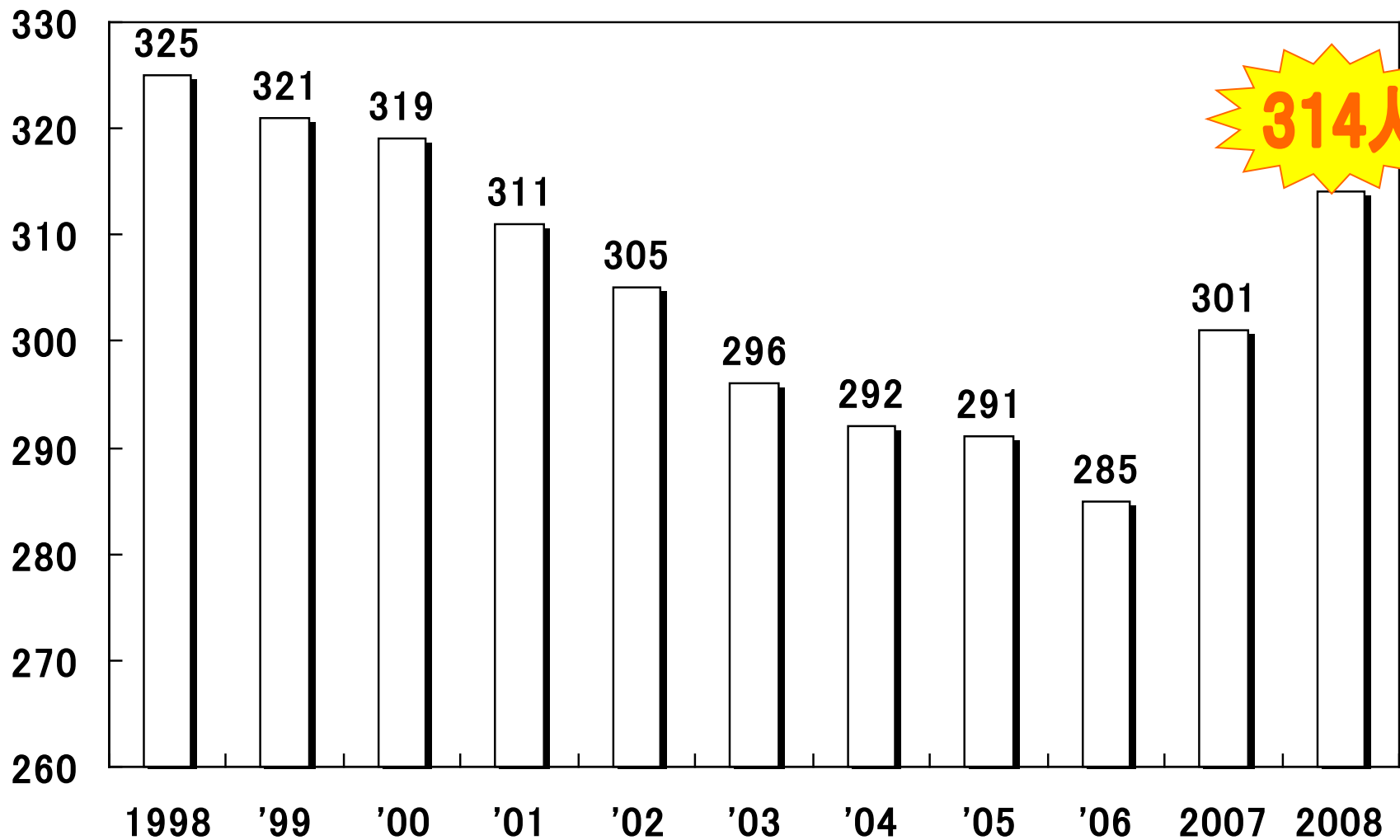


『やねだん』 めったに見られない芸術祭



柳谷集落の人口

単位：人



年度

『やねだん』シンボルマーク



やねだん芸術

むら並み回道



鹿児島県
鹿屋市 柳谷町内会

平成21年6月

やねだん入口
西側



↑ やねだん活動歴史館



↑ ギャラリーやねだん



↑ ギャラリーやねだん



↑ 迎賓館 1号館



↑ アトリエ6号館



↑ むら並み回道



↑ むら並み回道



↑ アトリエ 1号館と庭園



↑ 水彩家石原氏のアトリエ



↑ 迎賓館 5号館 奥の2階建ての牛小屋が美術館



↑ 中尾工房(ブロンズ像)と美術館



↑ 油彩家三谷氏の古事記



↑ むら並み回道(森林浴)



↑ むら工房





↑ やねどん快獣壁画



↑ 新設された『さくら温泉』



↑ むら並み回道(やねだん橋周辺)

わくわく運動遊園内



わくわく運動遊園内(健康遊具)



やねだん入口(東側)

～ むら並み回道 ～



挑戦 !!

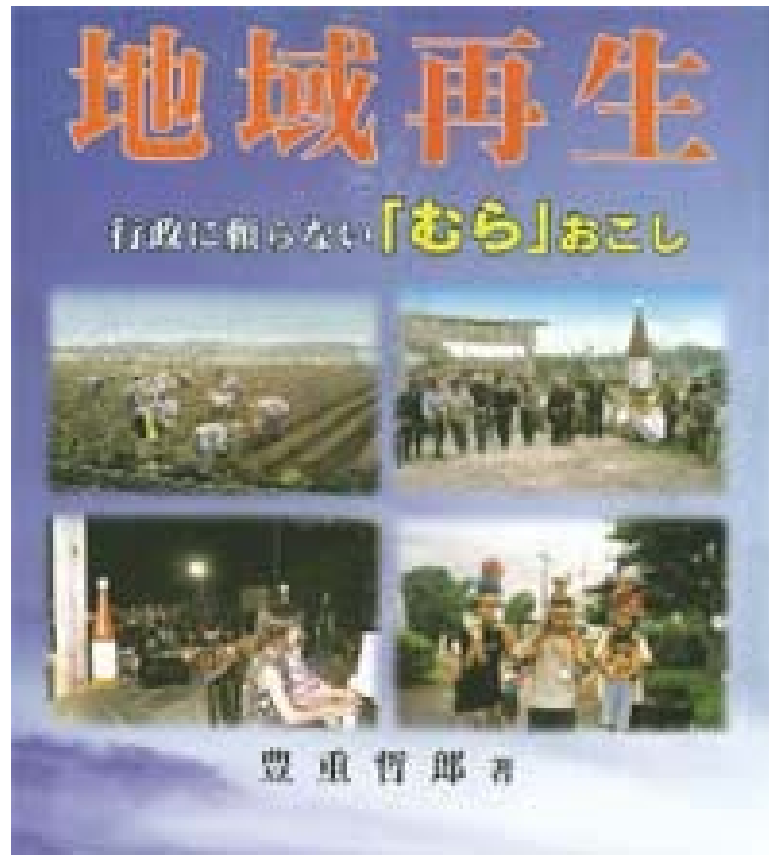
18歳の時にトライした 東京池袋～碓氷峠～軽井沢までの220kmのサイクリングを50年振りに車で孫たちと確認(68歳)

碓氷峠は、約9.7kmに184ヶ所のカーブの登り坂は地獄で、17時間の挑戦だった。





～ 著 書 紹 介 ～



地域再生

- 円満な『和』を基本に 先人たちの偉業を称え先輩の心を敬い、感動と感謝の活動。
- ビジネス感覚と地域経営学を共有し、情熱で人を動かす。
- 人間は誰でも社会に貢献できる力を与えられている。（もったいな～い！！）
- リーダーよ！覚悟しろ！！
- まだまだ、地域活性化には行政依存が必要であり、行政に大いなるエールを贈りたい。